

## 15-42 商人資本の運動

「商人資本の運動は、その独立化にもかかわらず、けっして流通部面のなかでの産業資本の運動以外のものではない。しかし、その独立化のおかげで、商人資本はある範囲のなかでは再生産過程の限界にはかかわりなく運動するのであり、したがってまた再生産過程をその限界を超えてまでも推進するのである。内的な依存性、外的な独立性は、商人資本を追い立てて、内的な関連が暴力的に、恐慌によって、回復されるような点まで行かせるのである。

それだからこそ、恐慌がまず出現し爆発するのは、直接的消費に関する小売業ではなく、卸売業やそれに社会の貨幣資本を用立てる銀行業の部面だという恐慌現象が生ずるのである。」（大月版『資本論』④ P380B8-2）

※ HP「F、資本主義社会Ⅳ」の「19-9 恐慌がまず出現し爆発するのは」と同一文章。